

与謝野駅周辺 まちづくり計画



—100年後も鉄道とともにあるまち—



目次

1	計画策定にあたって	
(1)	計画策定の趣旨	1
(2)	計画の位置づけ	2
(3)	計画策定のエリア	2
(4)	計画の策定体制	3
(5)	計画期間	3
2	現状と課題	
(1)	現状	4
(2)	課題の整理（求められる対応）	7
3	将来像と基本方針	
(1)	駅周辺まちづくりの将来像	8
(2)	基本方針	8
	方針① 新たな賑わいと交流を創出	9
	方針② 地域の価値を高め、この活動を持続可能なものに	10
	方針③ ちりめん街道等の地域資源との連携	10
4	計画の実現に向けて	
(1)	取組内容と今後の予定	11
(2)	まちづくりに向けた連携体制	12
5	巻末資料	
(1)	与謝野駅周辺まちづくり計画検討委員会	13
(2)	山田エリア・駅利用者アンケート	15
(3)	与謝野駅周辺まちづくりワークショップ	15

1 計画策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨



丹後山田駅の開通式
(大正14年7月31日)

与謝野駅(以下、「駅」という。)は、丹後山田駅として大正14年7月31日に開通式が行われてから、令和7年で100周年を迎えます。開通式の翌年の大正15年には、加悦鉄道が開業する等、地域の拠点駅として賑わいました。

現在の駅舎は、旧野田川町により平成2年に建替えられ、「きものの里・野田川町」らしく屋根を襟に見立てた和服をイメージした外観となっています。



現在の与謝野駅
(平成2年4月13日竣工式)

長年にわたり与謝野町(以下、「本町」という。)の玄関口として、通勤・通学・観光・帰省など多くの方に利用いただけていますが、人口減少や交通手段の変化等により、駅利用者数は減少傾向にあります。

一方、駅周辺では、近年、桜の植樹や、駅前広場の整備、ブルワリーの開業など、民間活力による賑わい創出の動きがあるとともに、令和5年5月から、上山田区、下山田区、地域事業者等で構成された、与謝野駅100周年委員会(以下、「地域団体」という。)を発足し、地域活性化の取組も行われています。

このような流れを受け、本町と地域団体による駅周辺における活性化のための対話を重ね、駅100周年を一つの契機として、これからの駅周辺における活性化のための計画を、地域・事業者・行政が共有するため、「与謝野駅周辺まちづくり計画」(以下、「本計画」という。)を策定しました。

本計画では、駅周辺のまちづくりの将来像や基本方針、主な取組の方向に基づいて、多様な主体による協働のまちづくりを推進します。



桜の植樹



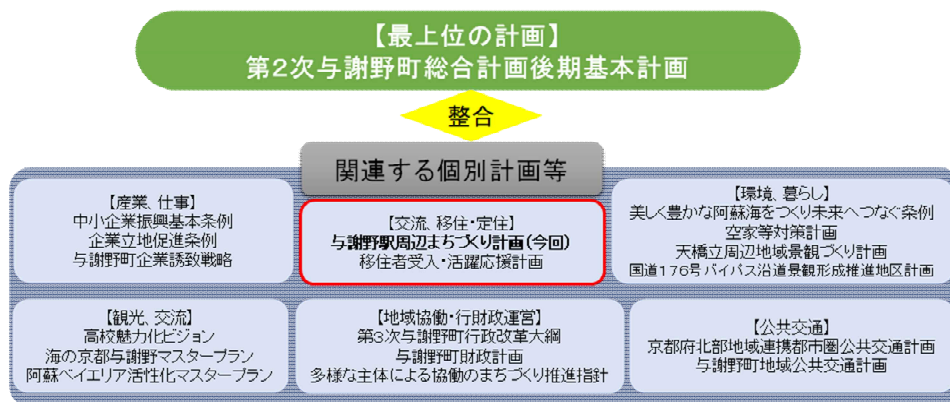
駅前広場整備



開業したブルワリー

(2) 計画の位置づけ

本計画は、与謝野町総合計画後期基本計画との整合性を図り個別計画として策定します。

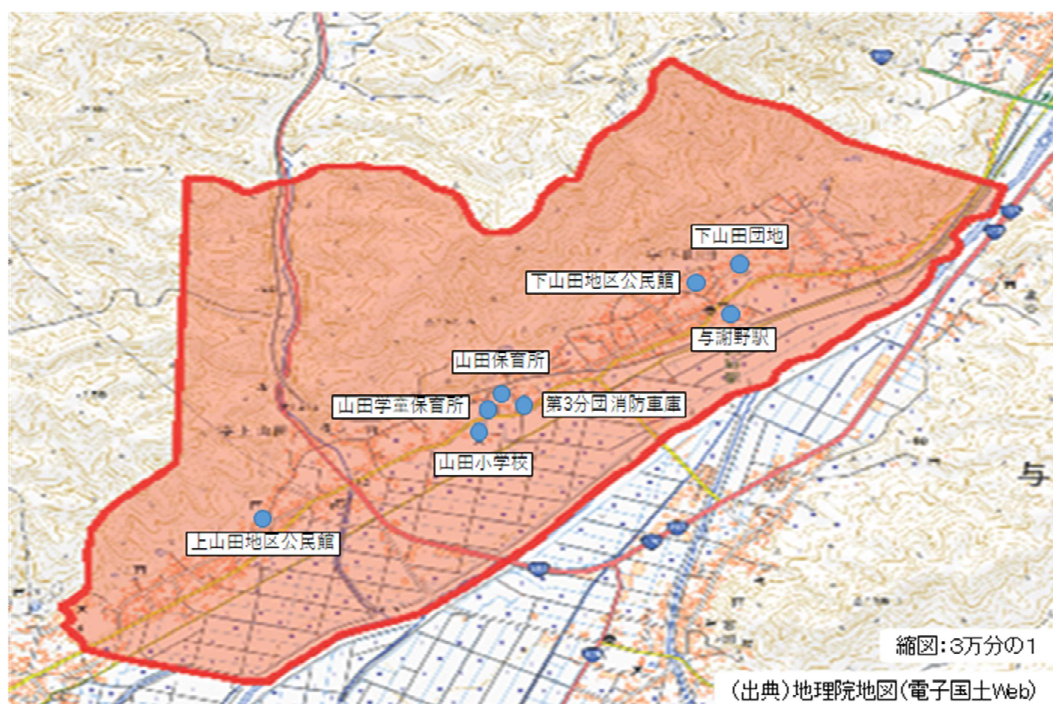


(3) 計画策定のエリア

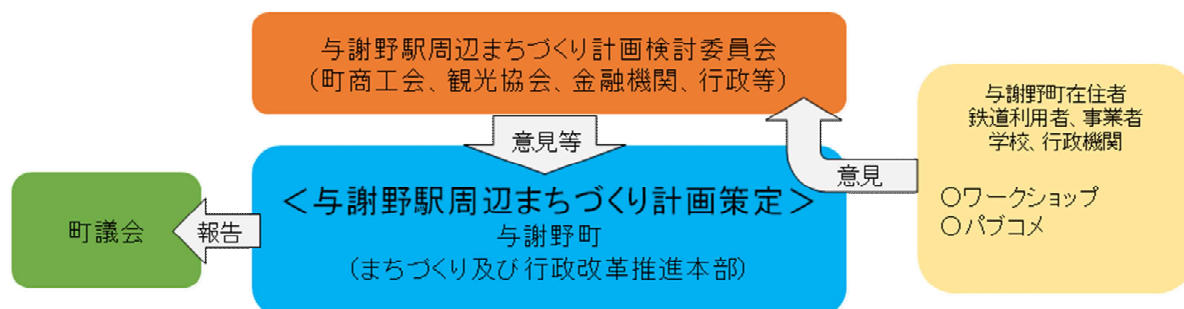
本計画は、地域団体や事業者と協力しながら、まちづくりに取り組んでいくものであるため、駅を中心とした上山田区、下山田区の山田エリアを対象とします。

○人口:下山田区 1,089 人、上山田区 612 人 合計 1,701 人(R6.3時点)

○面積:下山田区 1.61Km²、上山田区 3.13Km² 合計 4.74Km²



(4) 計画の策定体制



(5) 計画期間

令和6年度～令和8年度

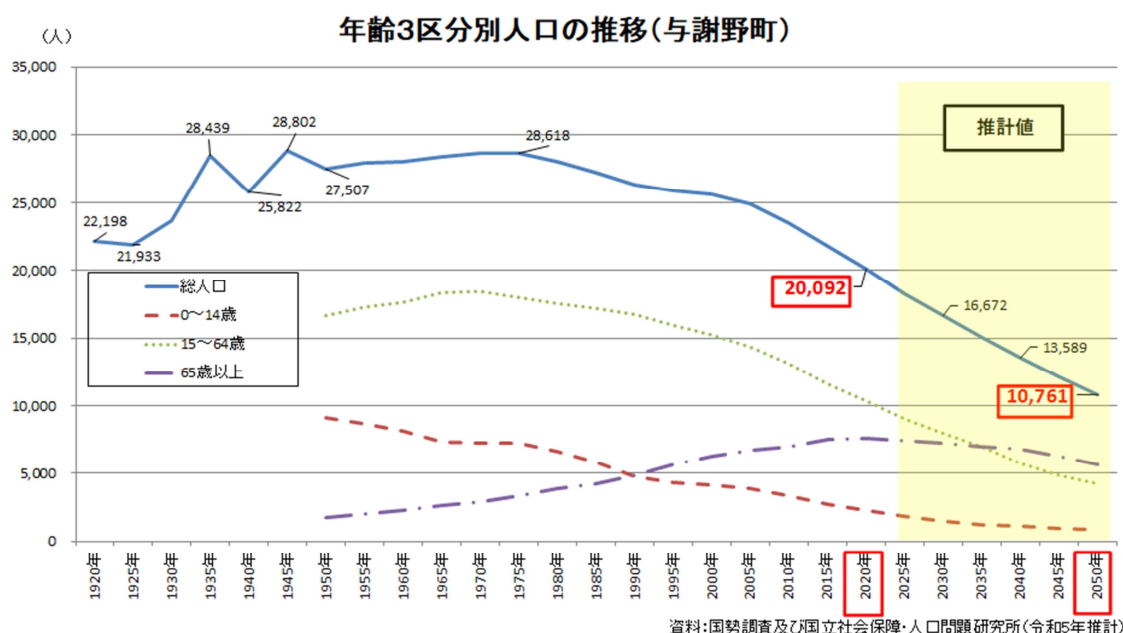
第2次与謝野町総合計画後期基本計画期間である令和8年度までを計画期間とし、今後の社会情勢の変化、多様化するニーズ等を踏まえ、令和9年度からはじまる第3次与謝野町総合計画には駅周辺におけるまちづくりの計画を反映することとします。

2 現状と課題

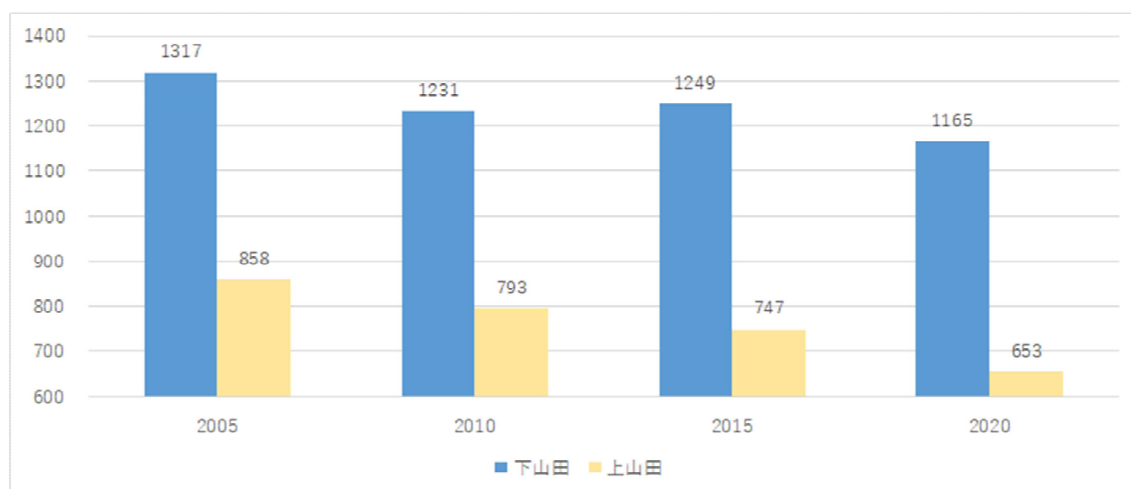
(1) 現状

① 人口の推移

令和2(2020)年国勢調査を基にした将来推計人口(令和5(2023)年推計)によると、令和22(2040)年には、人口の約半数を65歳以上が占める限界集落になり、令和32(2050)年には人口が半減する推計値となっています。



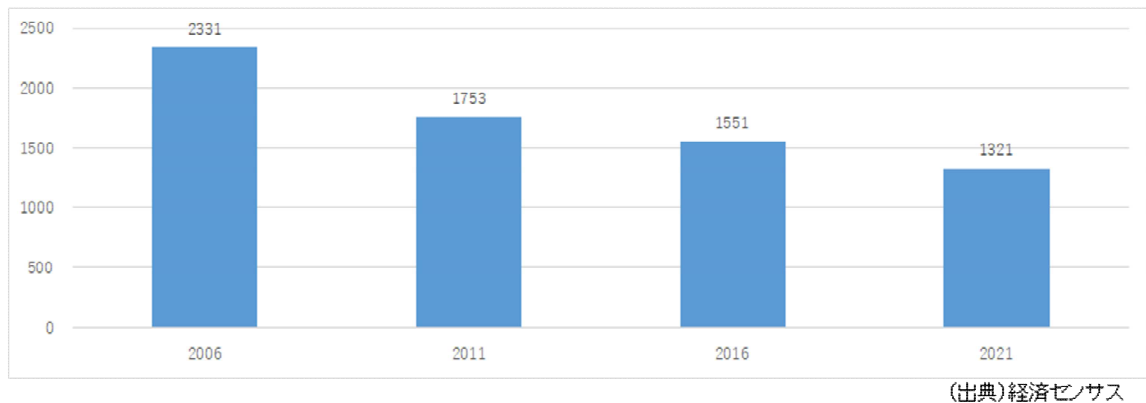
山田地区の人口推移を見ると、下山田区においては、集合住宅の建築により、一時的に人口が増加しましたが、年々減少傾向となっています。



(出典)与謝野町住民基本台帳

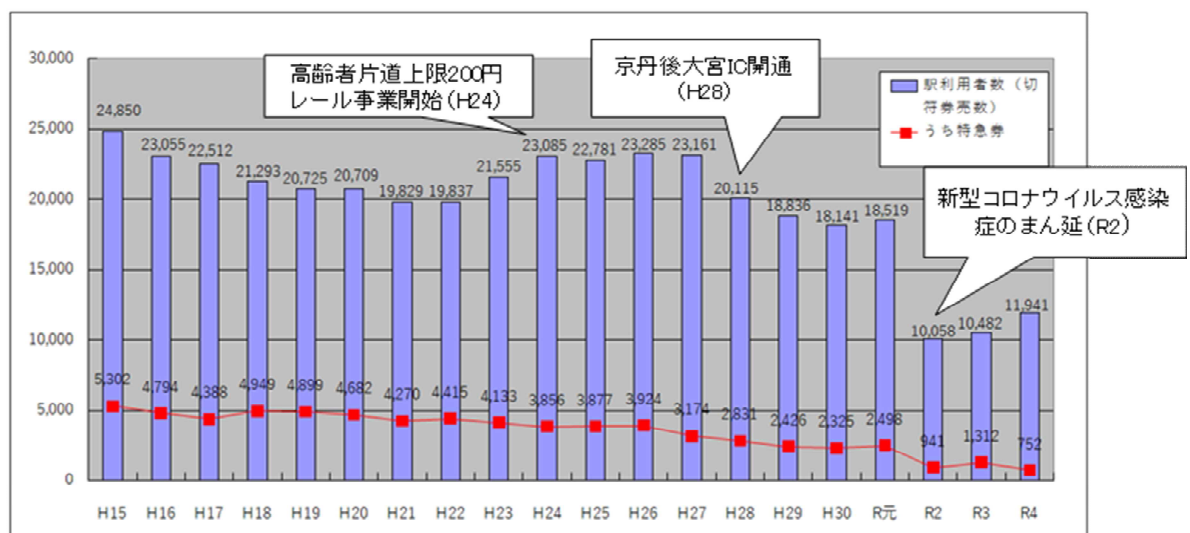
② 事業所の推移

事業所数についても年々減少傾向であり、織物事業者の高齢化による技術承継問題や大型量販店の進出による小売店の減少など、平成 18(2006)年から平成 23(2011)年にかけては、大きく事業者数が減少しました。



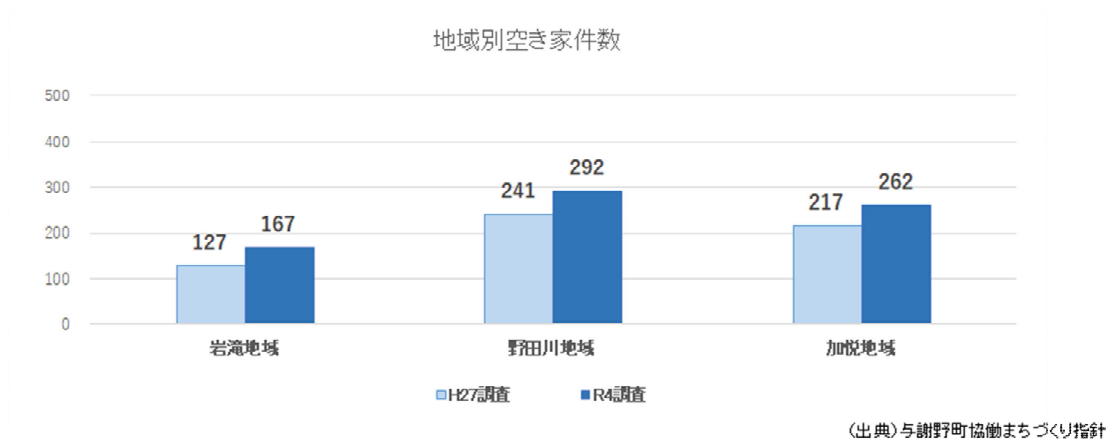
③ 駅利用者の推移

年々減少傾向が続く中、高齢者片道 200 円レール事業が開始された平成 24(2012)年は利用者の増加が見られます。しかし、高速道路の開通により再び利用者が減少し始め、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少しました。令和 4(2022)年は利用者が増加していますが、コロナ禍前の利用者には回復していません。



④ 空き家の推移

本町独自で行った空き家調査では、いずれの地域も増加しており、今後も増えることが予想されます。



⑤ アンケート及びワークショップ

令和5年5月～6月に地域団体が実施したアンケート及び令和6年5月～6月に本町が実施したワークショップにおいて、駅や駅周辺におけるまちづくりに対して、主に次のような意見が出されました。

<主な意見>

【駅周辺整備の方向性】

- 飲食店と連携
- あそび場としての広場活用
- 空き家活用
- 自転車道とホーム側のつながり強化
(自転車道からのアクセス、いい景色をみせる)
- 駐車場の改善・安全対策
(交差点の改善、歩車分離、駐車場の拡大、ロータリーの設置)

【駅・待合室/広場整備の方向性】

- 光環境の改善、窓の大口化
- ギャラリーの開放、会議室との一体化
- 展示の工夫
- 掲示活用・情報案内
- 地域の場としての活用

(2) 課題の整理(求められる対応)

① 人口減少対策

ア 自然減への対応、イ 社会減への対応、ウ 持続可能なまちづくりへの対応が必要

ア 自然減への対応

「子育てするならこのまちで」を基本的な理念とする、第2期与謝野町子ども・子育て支援事業計画を着実に実行

イ 社会減への対応

挑戦が生まれる風土づくり等による「一人ひとりが個性を活かして安心して働けるまち」、まちの魅力を活かした移住・定住の促進等による「地元を誇りに思い人の流れを生むまち」など、第2次与謝野町総合計画を着実に実行

(ア) 駅周辺の事業所等について

・人が集まれる小さな拠点(コンテンツ)の創出が必要

(イ) 駅利用について

・駅利用者が減少しており、新たな移動需要への対応が必要
・一方で、駅利用が集中する時間帯の安全対策が必要

(ウ) 関係人口の創出・拡大について

・まちの魅力を知り、誇りに思う住民を増やすことが必要

ウ 持続可能なまちづくりへの対応

(ア) 公共的サービスの維持に必要な担い手不足への対応

(イ) 地域コミュニティを維持するための対応

② 空き家対策

一方で増加する空き家対策には、ア 移住・定住相談対応、イ 空き家の流動化促進が必要

ア 移住・定住相談対応

町内での住居・就職・就農・起業・子育てなど各種相談を受け付ける「よさの移住・定住サポート総合窓口」での対応

イ 空き家の流動化促進

空き家所有者への直接的な働きかけ等による空き家バンク登録拡大への対応

3 将来像と基本方針

駅はおよそ100年にわたり、本町の玄関口として、多くの方に利用されてきましたが、近年は、人口減少や交通手段の変化・道路網の整備等により、駅利用者は減少しています。

一方、駅周辺では、近年、賑わいの創出や活性化の取組など、未来に向けた動きが地域・事業者・行政の協働により取り組まれています。

将来像と基本方針を定め、改めて、地域の課題に対して求められる対応を整理した上で、まちづくりを推進していきます。

(1) 駅周辺まちづくりの将来像

100年後も鉄道とともにあるまち

地域・事業者・行政がそれぞれの強みを活かしながら、鉄道、まちの玄関口の駅、空き家など、地域資源を活かしたまちづくりによる地域活性化を推進します。

(2) 基本方針

駅周辺まちづくりの将来像を実現するため、まちづくりの基本方針を次の3つに定めます。また、各方針の主な取組方向について、次ページ以降に整理します。

方針①

新たな賑わいと交流を創出

方針②

地域の価値を高め、この活動を持続可能なものに

方針③

ちりめん街道等の地域資源との連携

方針①

新たな賑わいと交流を創出

駅は、本町の玄関口として、通勤・通学・観光・帰省など多くの方に利用いただけていますが、次の100年につなげていくため、地域・事業者・行政が、それぞれの強みを活かしながら、協働により、新たな賑わいと交流を創出していくことが求められます。

1 駅周辺を活用したイベント等の実施

- 地域の方による駅周辺を活用した物販等のイベント、交流の実施
- 駅という特性を活かしたイベントの実施

2 新たなコンテンツの造成による関係・交流人口の創出と拡大

- 人が集まる・立ち寄れる魅力的なコンテンツの創出
- 滞在・体験型コンテンツの創出

⇒ 新たに駅周辺に、10コンテンツの創出

3 駅周辺エリア等の整備

- 安全・安心な駅周辺エリアの整備
- 快適に過ごせる待合環境の整備

⇒ 駅の年間利用者数の増加

イメージパース



※イメージパースは参考であり、関係機関等との協議により変更となる場合があります

方針②

地域の価値を高め、この活動を持続可能なものに

豊かな地域コミュニティや空き家などの地域資源を活かし、地域の価値を高め、関係人口を拡大させ、移住・定住につなげていくことで、新たに創出された賑わいを支え発展させる人材を呼び込み、この活動が持続可能なものになることが求められます。

1 まちの魅力発信

- 町内外の与謝野町ファンを増やすため、SNS 等を活用した積極的な魅力発信を実施

2 地域団体・事業者・行政が連携した移住・定住サポート等の実施

- 地域おこし協力隊等による移住・定住サポートの実施
- 移住促進特別区域を活かした移住・定住支援の実施

⇒ 空き家バンク登録数の増加

3 おもてなし・歓迎の機運醸成

- 地域の方による駅周辺の環境美化活動等の実施

⇒ 地域団体活動の継続

方針③

ちりめん街道等の地域資源との連携

駅を核とし、地域資源であるちりめん街道や阿蘇シーサイドパーク、滞在・体験コンテナとつなぐことにより、本町ならではの関係・交流人口の創出・拡大を図ることが求められます。



1 ちりめん街道や阿蘇シーサイドパーク等との連携

- 町内で実施するイベントと公共交通とのタイアップの実施
- 自転車道を活用した二次交通の充実

⇒ 公共交通と連動したサービスの提供

4 計画の実現に向けて

(1)取組内容と今後の予定(令和6年 8 月時点)

時期	取組内容・今後の予定
令和5年5月	○与謝野駅100周年委員会を発足 ○山田エリア・駅利用者アンケートを実施
令和5年6月～	○与謝野駅100周年委員会が令和5年度京都府地域交響プロジェクトを申請(8月に府採択) ・ワークショップの開催、駅前公園の整備
令和6年2月	○区民への回覧実施(下山田区長・上山田区長の連名) ・空き家対策として移住特区の指定を目指すこと。 ・地域おこし協力隊の受入を目指すこと。
令和6年3月	○令和6年度与謝野町当初予算可決(うち関連事業) ・与謝野駅周辺まちづくり計画事業 ・地域と連携した移住支援事業(地域おこし協力隊)
令和6年4月～	○与謝野駅周辺まちづくり計画検討委員会を開催(3回) ○与謝野駅周辺まちづくりワークショップを開催(3回) ○地域おこし協力隊を募集開始
令和6年5月	○山田地区で移住促進特別区域の指定を府に申請
令和6年6月	○与謝野駅100周年委員会が令和6年度京都府地域交響プロジェクトを申請
令和6年7月	○与謝野駅100周年委員会主催の「ヨサノガーデンフェス2024」開催
令和6年8月	○与謝野駅周辺まちづくり計画を策定
令和6年9月	○9月町議会議案提出(駅周辺エリア整備の設計費) ○地域おこし協力隊認定式、地域団体と役場の覚書締結式
令和7年3月	○3月町議会議案提出(駅周辺エリアの整備費等)
令和7年7月	○祝 与謝野駅100周年 ⇒次の100年に向けてスタート

(2)まちづくりに向けた連携体制

本計画策定後、地域主体のまちづくり活動の実現及び今後の社会情勢の変化等への柔軟な対応のために、地域住民、事業者、行政にて本計画で定める駅周辺まちづくりの考え方を共有し、多様な主体による協働のまちづくりを進めていきます。



5 巻末資料

(1) 与謝野駅周辺まちづくり計画検討委員会

① 与謝野駅周辺まちづくり検討委員会委員名簿

団体名	役 職	委員名	摘要
福知山公立大学 (地域経営学部)	教授	谷口 知弘	委員長
京都工芸繊維大学 (デザイン・建築学系)	教授	高木 真人	副委員長
WILLER TRAINS 株式会社	営業本部長兼 営業企画部長	荒川 直人	
与謝野町商工会	事務局長	市田 哲也	
与謝野町商工会青年部	部長	今井 信一	
京都工芸繊維大学 (デザイン・建築学系)	教授	角田 暁治	
与謝野町観光協会	事務局長	中野 和文	
京都北都信用金庫	野田川支店支店長	真柴 好雄	
株式会社京都銀行	宮津グループ 宮津支店・岩滝支店支店長	三神 淳弥	
与謝野駅100周年委員会	委員長	山崎 哲典	

<オブザーバー>

所属	役職	氏名	摘要
京都府建設交通部 交通政策課	参事	大野 義章	
京都府丹後広域振興局 地域連携・振興部企画・連携推進課	主幹兼係長	中井 雄作	
北近畿タンゴ鉄道株式会社 総務企画課	課長	廣瀬 和男	

(委員は五十音順)

②与謝野駅周辺まちづくり検討委員会開催

【第1回】

日 時 令和6年4月19日(金) 13:00～15:00

会 場 下山田地区公民館

議 題 与謝野駅周辺まちづくり計画の概要等について
与謝野駅周辺まちづくりワークショップ実施要領(案)について

その他 委員会終了後に与謝野駅周辺の「まち歩き」を実施



【第2回】

日 時 令和6年7月5日(金) 10:00～12:00

会 場 下山田地区公民館

議 題 与謝野駅周辺まちづくり計画(案)について



【第3回】

日 時 令和6年8月8日(木) 14:00～14:55

会 場 下山田地区公民館

議 題 与謝野駅周辺まちづくり計画(案)の確認について



(2)山田エリア・駅利用者アンケート

調査期間 令和5年5月～6月
調査団体 与謝野駅100周年委員会
調査対象 上山田区・下山田区を中心とした地域住民、鉄道利用者
回答者数 16人
主な意見 ○駅舎に打ち合わせスペースの設置
○駅舎の写真掲示や展示物の工夫
○駅舎周辺に案内板やモニュメントの設置
○駅舎周辺に特産品等販売する売店の設置
○記念切符の発行(与謝野晶子)
○駅イベント等の情報発信

(3)与謝野駅周辺まちづくりワークショップ

【第1回】

日 時 令和6年5月11日(土) 13:00～15:15
会 場 下山田地区公民館
テ ー マ 駅とまちへの思いを共有する
参加者数 25人
主な意見 ○飲食店と連携・あそび場としての広場活用
○空き家活用
○駐輪場側とホーム側のつながりの強化
○駐車場の改善・安全対策



【第2回】

日 時 令和6年5月19日(日) 18:30～20:45
会 場 下山田地区公民館
テ ー マ 駅づくり・まちづくりを学ぶ。未来を想像する。
参加者数 18人
主な意見 【駅周辺に関する方向性】
○ 飲食店と連携
○ あそび場としての広場活用
○ 空き家活用
○ 自転車道とホーム側のつながり強化
○ 駐車場の改善・安全対策

【駅・待合室整備の方向性】

- 光環境の改善、窓の大目化
- ギャラリーの開放、会議室との一体化
- 展示の工夫
- 掲示活用・情報案内



【第3回】

日 時 令和6年6月16日(日) 13:00~15:15

会 場 下山田地区公民館

テ ー マ 駅とまちと「私」の未来を描く

参加者数 25人

主な意見 【駅周辺整備の方向性】

- 飲食店と連携
- あそび場としての広場活用
- 空き家活用
- 自転車道とホーム側のつながり強化
(自転車道からのアクセス、いい景色をみせる)
- 駐車場の改善・安全対策
(交差点の改善、歩車分離、駐車場の拡大、ロータリーの設置)

【駅・待合室/広場整備の方向性】

- 光環境の改善、窓の大目化
- ギャラリーの開放、会議室との一体化
- 展示の工夫
- 掲示活用・情報案内
- 地域の場としての活用





人・自然・伝統

与謝野で織りなす 新たな未来

与謝野駅周辺まちづくり計画

発 行 令和 6 年 8 月

発行者 京都府与謝野町

〒629-2292

京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1798 番地 1

編 集 与謝野町企画財政課

電 話 0772-43-9015

<https://www.town.yosano.lg.jp/>